

令和4年度 経営情報学科

自己点検・評価報告書

令和5年3月

富山短期大学 経営情報学科

目次

番号	点検項目名	認証評価(第三評価期間)			記載の有無(○×)	記載箇所(各報告書での記載ページの最初を記入) ■は記載すべき部署												
		基準	テーマ	区分		教務部	学生部	地域連携センター	入試・広報センター	事務部	食栄	幼教	経情	健福	専攻科			
1	建学の精神	I 建学の精神と教育の効果	A 建学の精神	1 建学の精神を確立している。	×													
2	地域・社会貢献			2 高等教育機関として地域・社会に貢献している。	○								1					
3	教育目標		B 教育の効果	1 教育目的・目標を確立している。	○								2					
4	学習成果			2 学習成果(Student Learning Outcomes)を定めている。	○								2					
5	三つの方針			3 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針(三つの方針)を一体的に策定し、公表している。	○									3				
6	内部質保証		C 内部質保証	1 自己点検・評価活動等の実施体制を確立し、内部質保証に取り組んでいる。	○									3				
7	教育の質			2 教育の質を保証している。	○									4				
8	学位授与方針	II 教育課程と学生支援	A 教育課程	1 短期大学士の卒業認定・学位授与の方針を明確に示している。	○									4				
9	教育課程編成・実施の方針			2 教育課程編成・実施の方針を明確に示している。	○										4			
10	幅広く深い教養			3 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、幅広く深い教養を培うよう編成している。	○										5			
11	職業教育			4 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、職業又は実際生活に必要な能力を育成するよう編成し、職業教育を実施している。	○											6		
12	入学者受入れ方針			5 入学者受入れの方針を明確に示している。	○											6		
13	明確な学習成果			6 短期大学及び学科・専攻課程の学習成果は明確である。	○											7		
14	学習成果を測定する仕組み			7 学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている。	○											7		
15	学習成果を可視化する指標			8 資格・免許取得率、専門職就職率など学習成果を可視化する指標を持っている。	○											7		
16	卒業後評価への取組み			9 学生の卒業後評価への取組みを行っている。	○											8		
17	教育資源の有効活用			1 学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している。	○											8		
18	学習支援	2 学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている。	○											9				
19	生活支援	3 学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている。	○											10				

令和4年度 経営情報学科 自己点検評価報告書

1. 建学の精神（他部局で記載のため省略）

2. 地域・社会貢献

(1) 現状

① 地域理解の増進

- ・地域理解を深めるために、官民の協力を得ながら地域事情・課題など地域志向の内容を積極的に取り入れた講座の開講

特に本年度は、日本海学推進機構の研究助成を得て1年生学外研修の代替企画として地域理解を深める「地域を知る企画」を開催して、富山県鮭商生活衛生同業組合による「富山湾鮭」を食べる企画、株式会社大和による「百貨店業務の特徴と地域に根差した『デパ地下』について」の講演を実施した。

(詳細は富山短期大学 HP に記載)

- ・資格・免許取得に向けて、富山県内の施設・事業所等の協力を得、現場における効果的な実習を実施 (詳細は富山短期大学 HP に記載)

- ・地域課題解決型テーマや地域における調査活動等を取り入れた卒業研究等の積極的な推進

特に専門演習（井坂ゼミ）及び生涯学習概論において、射水市主催「いみず学生アイデアコンテスト」に応募し、「最優秀賞」「シニア人材の活用を核とした釣り場振興策『いみず釣り名人プロジェクト』」（グループ名：井坂ゼミ）及び「優秀賞」「またこられま射水 射水市リピーター獲得計画」（グループ名：おだんご）を受賞した。

(詳細は富山短期大学 HP に記載)

② 公開講座等の充実

- ・県民に役立ち、本学の特色をアピールできる魅力ある公開講座の積極的実施と、そのための効率的・効果的な PR

地域連携センターが統括する「富山短期大学公開講座」に注力し、5講座を担当した。

(詳細は「令和4年富山短期大学地域連携活動年報」に記載)

上記に加え、長田講師が日本海学推進機構 県民カレッジ連携講座において「郷土料理・伝統菓子を活用した観光振興策について-クルーズを中心とする観光振興を中心に-」の研究成果を公表した。

(詳細は日本海学推進機構 HP に記載)

③ 県内大学間連携の強化

- ・「大学コンソーシアム富山」を通じた県内大学との連携の強化を行った。

(詳細は令和4年4月、11月教授会資料に記載)

④ 高大連携事業の強化

- ・富山国際大学附属高校において高大連携授業を実施した。授業科目は「ビジネ

ス実務演習Ⅱ」、「国際経済論」、特別授業「新商品開発プログラムを体験しよう!!!」。(詳細は令和4年11月教授会資料に記載)

(2) 課題

公開講座をはじめとする各種地域連携事業について、地域連携活動が更に伝わるよう、可視化や情報発信の強化が必要である。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善状況・改善計画

- ① 公開講座：多様な専門分野を有する教員の特徴を生かし、開講時期や内容の見直しを継続していく。
- ② 継続して競争的資金を獲得しながら、地域の課題解決を図る研究を推進していく。
- ③ 学生の「いみず学生アイデアコンテスト」等への参加を促す。
- ④ 「大学コンソーシアム」は実施時期等を再検討して、単位互換科目を提供する。
- ⑤ 附属高校進路ガイダンス支援を継続したい。

3. 教育目標

(1) 現状

- ① 学科の教育目的及び目標を建学の精神に基づき確立している。
(詳細は学生生活のしおりに記載)
- ② 学科の教育目的及び目標を、ホームページや「学生生活のしおり」に記載し学内外に表明している。

(2) 課題

学科内で教育目的及び目標を周知する機会が多くはない。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善状況・改善計画

入学時オリエンテーションで、学生への教育目的・目標の周知を継続して図る。学生アンケートや授業改善レポート、Web シラバスのアンケートなどを利用して、学生の現状を踏まえた教育目標の点検・見直しを検討している。

4. 学習成果

(1) 現状

- ① 学習成果（能力基準別到達目標）を、建学の精神および学科の教育目的・目標に基づき定めている。
- ② 学習成果を、「学生生活のしおり」やweb シラバスで各科目に「学修成果別評価基準(ルーブリック)」として記載し、学内外に表明している。

③ Web シラバスシステムを活用し、学生の学習成果をレーダーチャートなどに可視化して定期的に点検し、各教員が学期ごとに「授業改善レポート」を作成している。

(2) 課題

学習成果が、具体性や獲得可能性、測定可能性の観点から適正なものであるかを確認する必要がある。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善状況・改善計画

学生アンケートや授業改善レポート、Web シラバスのアンケートなどを利用して、学生の現状を踏まえた学習目標の点検と必要に応じた見直しを行う。

5. 三つの方針

(1) 現状

①ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッションポリシーを一体的に策定し、「学生生活のしおり」や「募集要項」に記載して、内外に表明している。

②各教員は、これら3つのポリシーを踏まえた上でシラバスを作成し、教育活動を展開している。

(2) 課題

3つのポリシーの文言について、表現上、改善すべき点がある。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善状況・改善計画

3つのポリシーのうちのカリキュラムポリシーについて、一部文言修正を行った。今後も変更の必要に応じて見直しを検討する。

6. 内部質保証

(1) 現状

Web シラバスシステムを活用し、授業ごと及び学期ごとに「授業アンケート」を実施して、日常的に自己点検・評価を行っている。

(2) 課題

毎時の授業アンケートの提出を徹底できていない。継続的な自己点検評価の方法を工夫する必要がある。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善状況・改善計画

授業アンケートでの満足度の向上を目指す。

学生アンケートや授業改善レポート、Web シラバスのアンケートなどを利用して、学生の現状を踏まえた自己点検・評価を検討している。

7. 教育の質

(1) 現状

① シラバスの点検と改善

学科長と教務委員が経営情報学科のカリキュラム・ポリシーに沿って、各教員の Web シラバスのチェックを実施し、現時点での基準に対応していないものは修正を依頼している。

② 「授業アンケート」の利用による学修成果の到達度・変化の把握とその要因の分析

令和3年度の学科の「授業アンケート」については、学修成果の到達度・変化の把握と、その要因の分析について、各教員が授業改善レポートを作成している。

(2) 課題

複数教員による担当科目（いわゆるオムニバス科目を含む）の共通理解がまだ不十分である。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善状況・改善計画

シラバスの精緻化と授業アンケートでの満足度の向上をめざす。

8. 学位授与方針

(1) 現状（卒業認定・学位授与方針の点検・見直しの状況）

学則第2条の2「学科の目的」に照らし点検を実施したが、特に問題はなかった。

(2) 課題

特になし。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善状況・改善計画

社会情勢や企業団体のニーズにマッチしているか否かを毎年点検する必要がある。

9. 教育課程編成・実施の方針

(1) 現状

① 教育課程の点検・見直し状況

デジタル化技術が加速する社会を見据え、教育課程編成方針(2) ICT リテラシー・専門基礎教育について点検を実施し、DS（データサイエンス）や DX（デジタルトランスフォーメーショ

ソ) 教育を取り入れる。

② 非常勤講師・学生等との教育課程懇談会の実施状況

コロナ禍という状況を踏まえ懇談会は実施していないが、配慮学生等を含めた情報交換を、関係の非常勤講師と実施している。

(2) 課題

DS (デジタルリテラシー)、DX (デジタルトランスフォーメーション) 教育を発展させる。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善状況・改善計画

DS 等のデジタル教育について全学との歩調を合わせながら、学科内でも徹底する計画である。

10. 幅広く深い教養

(1) 現状

- ① 短期大学設置基準にのっとり、幅広く深い教養を培うよう教養科目を編成し、実施体制も確立している。(詳細は学生生活のしおりに記載)
- ② 教養科目についても「授業アンケート」を実施してその効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。
- ③ 専門科目との関連性を踏まえながら総合教養科目、外国語・体育科目など教養教育の改善・充実を図っている。
- ④ 教養演習では、読解力、不理解箇所の調査力、内容の整理力、資料の作成力、発表のプレゼンテーション力というビジネスパーソンが必要とする基礎的能力の習得を目的とした教育を行っている。具体的には、各教員が少人数制によるきめ細やかな個別指導を行うことにより、学問修得の面だけでなく、ディスカッションやコミュニケーションを通じて、社会常識を確認するための人間的成長の面についても習得を目指している。

(2) 課題

- ① 一部の教養科目に関して、よりシンプルでわかりやすいカリキュラムとなるよう再編する必要があると感ぜられる。
- ② 数理・データサイエンス・AI に関する基礎的な理解や関心を高める教養科目が求められている。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善状況・改善計画

- ① 令和5年度教育課程表の改定を実施した。
- ② 学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、それらを適切に理解

し、活用する基礎的な能力を育成することを目的とした教養科目を令和 5 年度より開講することとした。

- ③ 今後も必要に応じ、学生の幅広く深い教養の涵養に向けた各種改善を図る。

1 1. 職業教育

(1) 現状

① インターンシップの取り組み

本年度も夏季休暇を利用し、約 50 の企業団体に、1 年生全員が参加して 3 日間～10 日間就業体験を行った。また、12 月にはその成果をプレゼンする学内発表会も実施し、体験の情報共有とプレゼン力の養成を図った。

② インターンシップの効果を高めるための取り組み状況

企業団体からの評価票を学科教員で共有し、就職指導等に活用している。

(2) 課題

「日誌」や「評価票」の電子化（ペーパーレス化）

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善状況・改善計画

(2) について、企業団体と交渉を進めていく。

1 2. 入学者受入れ方針

(1) 現状

安定的な学生数を確保するため、多様な入学試験を実施している。推薦の指定校枠区分については高校側の要望なども含め柔軟に対応し早期確保を目指している。また、一般選抜、共通テスト利用型についても文系・理系問わず受験生が受験しやすい幅広い科目選択を実施している。

(2) 課題

18 歳人口の減少に伴う受験者数の減少対策、4 年制大学志望が強い高校生への短大の魅力発信、県内受験生の首都圏への流出の防止などが必要である。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善状況・改善計画

次年度も安定的な学生確保ため、データ分析とあわせて、推薦の指定校枠区分について柔軟な対応を図り、入学定員の確保につなげていきたい。

また、入試区分を拡大し幅広い層の受験生の受け入れを行いつつ、短大の魅力を発信するためにオープンキャンパスの回数を増加させる。

1 3. 明確な学習成果

(1) 現状

- ① 多面的な学修成果の把握による、「能力基準別評価方法」、「ルーブリック」、
シラバス」の点検と改善
学科長と教務委員が経営情報学科のカリキュラム・ポリシーに沿って、各教員の Web
シラバスのチェックを実施し、現時点での基準に対応していないものは修正を依頼
している。
- ② 「学生アンケート」の利用による学修成果の到達度・変化の把握とその要因の分析
学修成果の到達度・変化の把握と、その要因の分析について、各教員が授業改善レ
ポートで実施した。

(2) 課題

学科内で学科 FD を実施する機会が多くはない。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善状況・改善計画

- ① 「シラバス」の改善、② 「学生アンケート」による学修成果の分析を継続する。

1 4. 学習成果を測定する仕組み

(1) 現状

- ① 学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みとして Web シラバ
スシステムがあり、教職員により活用がなされている。
(詳細は教務部で記載のため省略)
- ② 学生アンケートや大学編入学率、就職率などのデータを活用し、学習成果を測定し
ている。
- ③ これらのデータ等をもとに評価した学習成果を学内外に公表している。

(2) 課題

授業評価アンケートや学修行動・生活調査などの回答率が低くならないよう工夫
が必要である。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善状況・改善計画

各種アンケート調査の回答率を維持・向上させるための方策について検討する。
学生の現状を踏まえ、学習成果を測定する仕組みの点検・見直しを検討する。

1 5. 学習成果を可視化する指標

※14 と同じ (短期大学評価基準の改訂により、14 と 15 は 1 つに集約されている。)

16. 卒業後評価への取組み

(1) 現状

- ① 全卒業生の就職先にアンケートを依頼して評価を聴取している。得られた情報は、就職支援センターと経営情報学科教員全員で情報共有を図り学習成果の点検に活用している。

(訪問記録は就職支援センターと経営情報学科事務室の両方で集約保管)

- ② 学生の就職活動の状況や内定取得の最新情報は、各ゼミナール担当教員が主となり学科共有ドライブにて管理し情報共有を行った。またこの学科共有ドライブは就職支援センターも閲覧・管理できるシステムに改善し、進路決定に困難であると想定される学生の早期発見と支援に活用している。

(結果は経営情報学科 NAS にて保管)

(2) 課題

- ① 公務員関係等、調査不可の就職先がある。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善状況・改善計画

- ① 調査不可の就職先には、個別電話にて現状を把握する。

17. 教育資源の有効活用

(1) 現状

①シラバスに示した成績評価基準によって学習成果の獲得状況を評価している。この点は、Web シラバスシステムの成績入力フォーマットにより、確実に担保されている。

②学習成果の獲得状況については、成績表や学生アンケート、就職・資格関連データ等により適切に把握している。

③学生による授業評価については、毎授業実施する授業アンケート並びに半期ごとに実施する授業評価アンケートにより行われ、特に後者についてはその結果を授業改善レポートにまとめ、実際の改善に活用している。

④授業内容について授業担当者間での意思の疎通、協力・調整を日常的に図っている。全学科教員が参加する教養科目に関しては、特に緊密な連携を行っている。

⑤教育目的・目標の達成状況について、各種学生アンケート結果や、成績関連資料、就職・資格関連資料等により、客観的に把握・評価している。

⑥学生に対する履修・卒業に至る指導については、学期始めのオリエンテーション等を通じて全体的に、また教養演習や専門演習さらにはゼミ担任による面談等を通じて個別的に、実施をしている。

(2) 課題

編入学志望者を主対象とした複数の科目に関して、よりきめ細やかな教員間の連携が求められる。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善状況・改善計画

編入学志望者を主対象とした複数の科目に関して、担当教員間で協議を行い、授業内容や実施体制の調整を行なった。

18. 学習支援

(1) 現状

① 成績評価や各種学生アンケート結果の学生へのフィードバックとアフターケアの充実

授業科目の履修生成績評価や、各種学生アンケート結果などのデータ収集とフィードバック方法、及びアフターケアの充実については、各教員が授業改善レポートで点検し、改善のための検討を行った。

② 成績開示と履修指導の実施及び個別指導の充実

- ・ 学生の成績は GPA 評価を付加した資料を学生に開示し、それを基にゼミ担当教員が学生の個別指導を行っている。
- ・ また、科内会議で学生指導の状況を共有するなどして充実させた。今年度は出欠管理を厳しく行い、4回以上欠席者は保護者へ郵送で連絡を行う。
- ・ また、成績等不振学生に対する個別指導を教授会決定内容に準じて実施した。
- ・ さらに、成績不振学生に対する個別指導として、保護者懇談会(大学祭期間中)を実施し、保護者への現状理解と情報共有、当該学生の意識確認などを行った。

③ アクティブ・ラーニングを導入した授業科目の増加

- ・ 学科ではアクティブ・ラーニングの導入を推奨している。
- ・ 毎回の授業アンケート結果に対して各学生にコメントを返し、匿名性を保持した状態で全員へ返信することで、他受講生の意見や類似した意見を参考に、主体的な学びを促進させることを試みた。

④ 授業外学修時間を増やすための授業方法等の工夫

予習・復習を必要とする授業(反転授業)については、Web シラバスを利用して実施している。その効果は、各教員が学生の成績や期末授業アンケートなどを基に授業改善レポートで検証を行っている。

⑤ 図書館設備・環境の改善

- ・ 各専任教員が自分の専門分野の中で特に学生に読んでもらいたい本を選定し図書館に揃えた。経済・経営・会計・簿記・ビジネス実務・図書館分野の本

の良書を取り揃えたことは学生の更なる勉学に役立つと期待される。

- ・ 教室の一部に新聞・雑誌の閲覧コーナーを設けている。新聞は 6 紙用意されており、記事の読み比べに適している。

⑦ 入学前指導の実施内容

- ・ 入学前セミナーで学科長および担任による入学までに習得すべき課題について説明を行った。

⑧ 学科独自の個別的な学習支援の取組

- ・ 各教員がオフィスアワーを利用し、学生の個別対応を実施している。また、資格関連や編入学などの個別対応を長期休暇・休日・時間外などを利用して実施していることもある。

(2) 課題

- ① 成績不良であっても改善に努める学生と、そうでない学生の二極化が生じている。
- ② 学生が進んで図書館に足を運び学修するきっかけづくりが必要である。科目での課題提出と絡めた指導が必要である。
- ③ 科内の新聞の閲覧コーナーは、予想以上に学生が活用しているが、ただ読むだけではない新聞の活用策を検討していく必要がある。
- ④ 学科独自の個別的な学習支援を行うため、長期休暇・休日・時間外などを利用せざるを得ない状況である。このままでは担当する教員への負荷が大きくなるため、効率的かつ効果的な個別対応の方策を検討する必要がある。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善状況・改善計画

- ① 今後は成績不良者への補習を検討しなければならない。
- ② 1 年次の「大学教育と学修」は専任教員全員がオムニバスでコマを担当している。この科目の指導を通して図書館利用を促すと共に、より学生が利用しやすい図書館のあり方や新聞の活用策を提案していく。

19. 生活支援

(1) 現状

- ① 学生部・保健室と連携して、学生の生活支援を積極的に行っている。
(詳細は学生部で記載のため省略)
- ② 学生への支援・相談は主にゼミ担任が担当している。
- ③ コロナ感染した学生はゼミ担任へ連絡し、<https://forms.gle/oDF5Zp1g93drUg3s7> に現状を回答させ、学科教員と共有できるようにしている。コロナ感染した学生から連絡を受けたゼミ担任は、学科教員・学生課長・健康支援センターにメールを送信し、情報共有を図っている。

(2) 課題

- ① カウンセリングを必要とする学生が増えてきている。
- ② 母子家庭など経済的支援を必要とする学生が増えている。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善状況・改善計画

学生部・保健室との連携を密にして、支援を必要とする学生に対して適切かつ迅速に対応する。

20. 進路支援

(1) 現状

- ① 本学に来た求人は、学生（Education システム）にデジタルデータとして提供している他、紙媒体の求人票を学内 2 か所（3F 事務室廊下、就職資料室）で閲覧できるコーナーを設置している。
- ② 近年増加する就職支援サイト(マイナビ・リクナビ等)の使い方や登録方法を指導し、早期に活動を開始するよう促している。
- ③ 企業へのエントリー方法や履歴書の書き方、そして礼状の出し方までの一連の就職活動は、進路ガイダンスにて一斉指導を行っている。
- ④ 学生の個別支援は各ゼミナール担当教員が行っている。少人数であるため、学生ひとり一人の資質に合わせた指導が出来ている。
- ⑤ 就職活動に困難が生じている学生に対しては、就職支援センターと連携し、個別指導が出来る体制を構築している。

(2) 課題

- ① 就職活動の前倒しが考えられることから、進路ガイダンスのスケジュールの見直しが必要である。
- ② 就職活動の困難な学生は、なるべく早く個別対応へと切り替え、ハローワークの支援を受けながら、企業への個別アプローチを行う必要がある。

(3) 特記事項

特になし

(4) 改善状況・改善計画

- ① 科内で連携し、学生が希望する進路に合わせた柔軟な指導方法を提示する。
- ② 就職支援センターとの連携強化に努め、ハローワークへと繋げる。

21. 健康支援

(1) 現状

障がいのある学生等に対する個別支援の強化

- ・入学前に申請があった場合、保健室から各学年担任に連絡される。本人の意思を確認し、周知する範囲を厳守しプライバシーの保護に努めている。
- ・今年度は「緊急性が高いアレルギー症状」への対応に関する講習を全教員が受講した。さらにアルコールアレルギー疾患のある入学生に関する情報を共有し、教室における消毒には細心の注意を払った。次年度も同様の対応が必要である。
- ・学年はじめに保健室から学生の健康情報の提供があり、それに基づいて学生への対応には注意を払っている。

(2) 課題

学習障害や発達障害を抱える学生の増加に対する対策を講じるべきと考える。基本方針として保健室との連携にて対応しているが、学修や就職支援等のゼミ担任の負担が大きいと言える。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善状況・改善計画

環境整備で対応できる支援策は速やかに実施し、学習障害や発達障害を抱える学生に対しては保健室との連携を強化していく。

26. 教育研究活動

(1) 現状（学科教員の教育研究活動の概況）

①教育活動

授業アンケートによる総合評価値（令和4年度後期）は、4点満点中、3.27以上となっており、学生の満足度は概ね良いと判断できる。

②研究活動

富山短期大学紀要をはじめ、学外でも学会等に研究成果を発表し積極的な研究活動を行っている。

(2) 課題

配慮学生が年々増え、その指導に要する時間増により研究活動等に割ける時間が減る傾向にある。よって、配慮学生指導の効率化が課題である。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善状況・改善計画

配慮学生の卒業、及び出口（就職）確保が効率的にできるよう、学科内で情報を共有し対応方法を体系化していく。

令和4年度 本学卒業生の事業所・企業等就職先訪問 報告書
 — 卒業生（令和4年3月卒）の状況報告書集計 —

経営情報	学 科
調査卒業生数	76名（4名退職）

評価項目	A（良い）	B（やや良い）	C（普通）	D（やや悪い）	E（悪い）
1. 礼儀・基本的マナー	59%	24%	15%	2%	0%
2. チームワーク [チームで働く力]	53%	23%	18%	5%	1%
3. アクション [前に踏み出す力]	38%	31%	23%	8%	0%
4. シンキング [考え抜く力]	25%	41%	30%	4%	0%

<p>5. その他、応対者のコメント ※企業団体名は削除</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るく元気に業務をまじめにこなし能力も向上している。 ・まじめで吸収力があり順調に技術を習得。自発的な行動が少なく対話スキルに不足を感じる。 ・若いので無理が利くが自分の仕事の仕方やベースをつかんでほしい。 ・仕事に対して誠実に謙虚な姿勢で取り組み積極的に学ぶ姿勢もあり社員の模範となっている。 ・PC検定などの能力基礎ベースがあり業務のデータ整理など適応が早い。 ・4年制大学生との比較も遜色なし。将来は管理職への昇格も有望視している。 ・一生懸命仕事に取り組む姿勢があり頼もしい。出来ないことに挑戦することはとても評価できる。 ・挨拶、礼儀等学生時からしっかり出来ていた。お客様・同僚・先輩・職員からも評判がとても良い。 ・仕方のないことだが、四年制の同期社員との研修では向き合う姿勢の違いが大きい。 ・入社後2か月間の研修で大きく成長した。職場にも慣れ、より成長することが楽しみ ・職場では積極的に行動し好感もてるが精神面でやや波がある。経験を踏まえ成長に期待。 ・仕事に慣れるにつれて積極性が出てきた。失敗はあるが次に活かして業務に取り組んでいる。 ・良くも悪くも勉強中。自分に自信が持てず消極的だが一生懸命やっている。 ・真面目な好青年、同期入社6人の中で一番年下だが一番頼りになる存在。
--

<p>★大学に要望すること(大学で指導してほしいこと、学生に身に付けてほしいこと 等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションスキル、プレゼンスキル、対話スキルを磨く。 ・課題、問題解決に仮説と検証のサイクルをスピード間をもち回す習慣もしくはその意識付け。 ・今後導入が進むDXの知識、スキルが重要。 ・ITスキル。バイトやボランティア等の社会経験を積む。 ・リーダーシップ能力、周りを巻き込み行動する力。 ・県内唯一の司書養成科目開講大学として司書育成に期待している。 ・働くとは？お金を稼ぐとは？を考えさせてほしい。 ・大卒メインで採用を行う企業にも積極的にチャレンジしてほしい。 ・採用選考を受ける前に企業研究(特性、自分に合っているか等)深めていただきたい。 ・リアル体験を交えた電話対応スキルを学んでほしい。説明能力(的確な表現・誤解を招かないコミュニケーション) ・営業職の募集なのでビジネスマナーやコミュニケーション能力の指導を期待。 ・上司、部下、同期、関係なく積極的にコミュニケーションを取り協力する力。グループワーク等で経験を積む。 ・常に問題意識を持ち自主的に行動。目標達成に協力できる人材への指導。
--